短 歌

【小学1年生・2年生】

特 選

2ねんせいすこしせんぱいうれしいな
ならんであるく1ねんせいと

城西小学校2年　徳永　明李

（評）　しゅうだんとうこうでしょうか。二年生になったよろこびと、一年生へのいたわり、やさしさなどがわくわくとつたわってきます。とてもよい歌だと思います。これからもたくさんつくってくださいね。

（彦根文芸協会　森　典子）

準特選

いえのにわくろときいろのおようふく
きているはちがブーンときたよ

城南小学校2年　堀田　梨央

（評）　おにわのみどりにくろときいろのはちがとんできたようす。色もはっきりしていて、ようふくをきている、たとえもとてもよかったと思います。これからもいっぱいつくってくださいね。

（彦根文芸協会　森　典子）

佳 作

あさろくじラジオたいそういくじゅんび
きがえのよこでとうさんねてる

城南小学校1年　山髙　佑果

入 選

なつまつりわたあめかってたべながら
かきごおりかうシロップはいちご

若葉小学校2年　権代　優紗

【小学3年生・4年生】

特選

ゴールしたこのうれしさがたまらない
おとうとがとぶわたしもジャンプ

城南小学校3年　髙橋　みのり

（評）無事にゴールできてよかったですね。一生けんめいがんばってゴールできた時のようすとうれしくてはずむ心のようすも素直に表現できています。おとうとがとぶ、わたしもジャンプと言葉を考えて工夫しているところが良いです。読む人にもうれしい心を与えてくれます。

（彦根文芸協会　日比野　美鈴）

準特選

さわさわと木と風おしゃべりなんだろう
わたしもいれてひみつのはなし

城南小学校4年　山髙　愛莉

（評）さわさわという木と風の音をどのようなおしゃべりをしているのかと感じ取ることのできる美しい感性です。さらに、わたしも一緒に仲良くはなしをしたいという幻想的な広がりで自然と楽しくかかわることのできる優しい心をこれからも大切に育ててください。

（彦根文芸協会　日比野　美鈴）

佳作

ねこじゃらしねらいをつけてとびかかる
かわいいねこがきょうぼうになる

高宮小学校3年　布部　悠成

佳作

もみじがねひらひらおちてかくれんぼ
だれがおにかな見つかるのかな

城陽小学校3年　竹中　由衣

入選

一年後次はりっぱな四年生
こんどはぼくがおんがえしする

城陽小学校3年　髙須　瑞樹

入選

もみじがねひらひらひらとおちてゆく
そろそろ秋ももうおわりです

城陽小学校3年　内堀　新大

【小学5年生・6年生】

特 選

宝物一つしかない宝物
ひとつのいのちだいじないのち

平田小学校６年　小浜　ユウジ

（評）上の句、「宝物一つしかない宝物」、下の句「ひとつのいのちだいじないのち」、一読とてもわかりやすい歌です。この歌のおもしろさは、「宝物」「ひとつ」「いのち」をそれぞれ二回使っていますが少しもわずらわしくないことです。うまく詠めました。

（彦根文芸協会　長谷川　紀子）

特 選

習い事終わってみると雨やんで
空にきれいなダブルレインボー

稲枝東小学校６年　田邊　誠真

（評）習い事が終わった時、雨は止んでいて、虹が見えました。習い事と、自然の景色を合わせてその瞬間を詠まれ、成功しました。しかも虹は、ダブルレインボーでした。
短歌は、現在形の瞬間を詠みます。ダブルレインボーに会えて、よかったですね。

（彦根文芸協会　長谷川　紀子）

準特選

秋の湖夕日が照らす水面を
なみといっしょにかがやいている

城陽小学校６年　内堀　真夢

（評）作者は、湖岸を通った時、秋の夕日の美しさに感動し、その景色に見とれて詠みました。
秋の湖は、夕日が照らす水面を波といっしょにかがやいていたのでしょう。美しいびわこの夕焼け時の姿に見とれて詠みました。
これからも楽しく詠み続けてください。

（彦根文芸協会　長谷川　紀子）

準特選

ありがとうこの一言からみんながね
うれしくなって笑顔が広がる

稲枝東小学校６年　寺田　芽惟

（評）作者は、ありがとうの一言で、その場がなごむと言うことを詠もうと考えました。
ありがとうの一言で、言う人も言われる人もこころはればれうれしくなります。まわりのみんなもうれしくなって、笑顔が広がると詠みました。本当にそのとおりですね。

（彦根文芸協会　長谷川　紀子）

準特選

組み体操汗ビッショリの体操服
汗の数だけクラスの笑顔

城東小学校６年　東川　唯花

（評）　組み体操は、全員の力の一致が大切です。きんちょうします。汗もかきます。
四句、五句の、「汗の数だけクラスの笑顔」と、うまく表現できました。これからも、学びの場や生活の中からこの歌のように詠み続けてください。
（彦根文芸協会　長谷川　紀子）

準特選

たのしみはわが家で読書数時間
眠気おそわれねむりに就く時

稲枝東小学校６年　鵜野　太輔

（評）　読書好きの作者は、夢中になって読んでいるうちに、数時間も経ってしまいました。
眠気におそわれて、やっと眠りに就くのですね。この読書ざんまいの時間の経過から眠りに就く時の充足感が、「たのしみ」であると詠みました。成功です。自分の時間を大切に読書されて立派です。短歌も詠んでね。
（彦根文芸協会　長谷川　紀子）

佳作

ゑびすこうフェイスペイント色ちがい
ほっぺのチョウは友情のあかし

城東小学校５年　小山　みなみ

佳作

ぴかぴかのランドセル背に笑う子と
共に笑うは満開の花

城東小学校６年　福原　恵実

佳作

秋の夜まどを開けると聞こえてくる
虫たちかなでるオーケストラが

城西小学校６年　髙村　柊

佳作

たのしみは家に帰り自転車で
風を切って習字に行く時

城西小学校６年　山口　あかり

佳作

たのしみは家に帰ってがくふとり
ピアノできょくをひいている時

城北小学校６年　三保谷　郁美

佳作

たのしみは朝早く起き私焼く
ふわトロたまごが口に入る時

平田小学校６年　樋口　瑞妃

佳作

たのしみは実験をする理科室で
知らないことを調べる時

稲枝北小学校６年　大西　桜愛

佳作

楽しみはいとこ全員集まって
一泊二日おとまりする時

旭森小学校６年　池田　瞬

佳作

楽しみは年に一度の夏休み
旅行やキャンプ計画する時

旭森小学校６年　金子　寧々

佳作

たのしみはピアノ教室習い事
きれいな曲を多くひく時

稲枝東小学校６年　川瀬　瑞葵

入選

たのしみは土日にしてるバドミントン
いろいろな人と試合する時

城北小学校６年　軸原　明日香

入選

楽しみは家にとどいた本を読み
本の世界に入りこむ時

城北小学校６年　山口　栞利

入選

このきせつ読書のしおりはもみじの葉
まっ赤にそまるきれいな紅葉

城陽小学校６年　古川　みさき

入選

たのしみは土日休みに愛用の
トランプつかい手品する時

平田小学校６年　永野　翔大

入選

はだざむい秋晴れの日の山登り
赤黄茶色のけしき見に行く

平田小学校６年　大橋　由奈

入選

たのしみは本の世界に入りこみ
どきどきしながらページめくる時

平田小学校6年　西澤　凛香

入選

おかし作りたまごをわってまぜまぜる
冷ぞう庫に入れ楽しみをまつ

平田小学校6年　辻　羽麗

入選

たのしみはこっそり一人歌うたい
自分の世界入りこむ時

城南小学校6年　・川　奎衣

入選

たのしみは緊張するテスト返し
そっと開いて百点の時

平田小学校6年　東　幹也

入選

たのしみは新しい本買った時
時間を忘れて読みふける時

稲枝東小学校6年　近藤　心斗

入選

たのしみは白のページに線を書き
美しい絵を書いてゆく時

平田小学校6年　坂田　あすか

入選

コスモスの赤白桃がゆれている
朝の寒さに今は耐えつつ

稲枝東小学校6年　明石　怜子

入選

けんかして静かに歩く帰り道
足音だけがただひびきつつ

城東小学校6年　真杉　姫生

入選

もみじの葉あかきみどりにいろづいて
じぶんのいろをじまんしている

城西小学校6年　中川　奈保

入選

たのしみは家に帰って本を読み
本の世界に入りこむ時

稲枝東小学校6年　中川　萌百

【中学生】

特 選

晩ご飯家族そろって食べるとき
今日の疲れが吹きとんでいく

中央中学校２年　石橋　陽茉理

（評）　幸せな家庭の団らんが目に浮かびます。家族がそろって夕食を食べることは、とても大切なことです。今日一日の出来ごとを持ち帰って語り合えば、疲れもどこかへ吹き飛ぶ思いがするという。感想をそのまま歌にされ、読む人も共感します。作者の前向きな生き方がよく表われていて良い歌です。

（彦根文芸協会　河分　武士）

特 選

あついなかひたすらふいたまどガラス
まどもこころもキレイになった

稲枝中学校２年　永井　花菜

（評）　職場体験でしょうか。学校や家庭での体験でしょうか。暑い中を頑張ってふいた窓ガラスが美しく仕上って、とてもうれしかったのでしょう。窓ガラスと同時に自分の心もきれいになったと感じたのを歌にしたのがとても良かった。「〇〇をして私はどう思った」と感想を述べることは歌つくりに大切な事です。

（彦根文芸協会　河分　武士）

特 選

部活動努力するほど強くなる
それを信じて今日も頑張る

南中学校２年　山下　玲奈

（評）　部活動はのんびりしたのでは進歩しません。きびしい練習にもそれをがまんして努力すれば必ず強くなれます。口で言うのは簡単ですがなかなかそうはいきません。それでも信じて前向きに取り組む姿勢と意欲がよく出ています。

明るく、前向きな取り組みを歌にするとみんなの共感を呼びます。

（彦根文芸協会　河分　武士）

準特選

ありがとうお礼を言われた袋つめ
やる気がでてくる魔法の言葉

稲枝中学校２年　大園　翔香

（評）「つかれるなあ」と思いながら、同じことを続けなければならない時に、ひと言「ありがとう」と言われて気分が変わり、またやる気がわいて来たという。まるで魔法をかけられたように、言葉が大切な役目をすることを体験を通じて感じたという。体験したことと感想を上手に歌にしてまとめられました。

（彦根文芸協会　河分　武士）

準特選

ピンクの絵子どもがくれたプレゼント
私の心もピンクでぽかぽか

稲枝中学校２年　猪塚　萌那

（評）職場体験で園児と楽しく遊んだのでお礼にピンクの絵をプレゼントしてもらったという。その時のうれしい気持がよく出ています。それに対して「私の心もピンクでぽかぽか」と気持を上手に歌にしたのはとても良かった。この歌を読むと読者もあたたかい気持になってきます。

（彦根文芸協会　河分　武士）

準特選

おかえりと言われて感じる安心感
いつもの幸せ感謝の思い

西中学校２年　武田　結侑

（評）学校を終わって疲れて帰ってきた時に「おかえり」と家の人（母や祖父母など）の声がすると安心する気分になるという。自分の心をすなおに歌にしたのが良かった。幸せや感謝の思いを持って生きていると、周りの人も明るい気持になるのでとても大切なことです。これからもそんな気持で良い歌を作って下さい。

（彦根文芸協会　河分　武士）

準特選

今までの辛い練習思いだし
強い気持ちでのぞむ大会

南中学校２年　小林　莉緒

（評）大会の日が来て勝とうと思うほど実力が出しにくいものです。しかし、今まできびしい練習を頑張って来たことを思い出していると心が落ちつくのでしょうか。そして強い気持になってくるのがわかる歌です。この歌を読むと「悔いの残らないように力いっぱい頑張れ」と応援したくなります。

（彦根文芸協会　河分　武士）

準特選

母の日に感謝の気持ちプレゼント
少してれてる母と私

南中学校２年　・村　翼沙

（評）母の日に、日頃の感謝のプレゼントをしてみたが、母も自分も少してれている。それでも何だかすっきりした気持で温かくなってくる。心のびみょうな動きをとらえて上手に歌にされました。心の動きを歌にするのは難かしいことのようですが、決まってみると、とても良い歌になります。

（彦根文芸協会　河分　武士）

準特選

授業する窓からみえる大空に
翼をひろげてとんでゆきたい

鳥居本中学校２年　西川　遼

（評）授業の時間は授業に専念しなければならないのですが、ふと窓の外を見ると大きく広がる青空が見え、箱のような教室にいる自分がちっぽけな存在に思えたのでしょうか。羽ばたいて大空へ飛んで行きたい衝動にかられた。若者らしく、空想的でも、歌は読んでくれる人の心にひびけば意味があります。

（彦根文芸協会　河分　武士）

準特選

真夏日のいつもの練習辛いけど
試合で勝つため僕はがんばる

彦根中学校２年　石田　祐誠

（評）頑張ろうと思う心をそのまま歌にしたのが良かった。夏の暑い日には「いつものように練習」と言われても、とても辛かったでしょう。それでも試合に勝ちたいと目標に向って努力する姿が浮かびます。結句を「僕はがんばる」としたことで、この歌がとても良くなりました。

（彦根文芸協会　河分　武士）

準特選

たんぽぽよ遠く遠くへ飛んでゆけ
まだ見知らぬ地恐れず翔け

彦根中学校２年　川島　勝樹

（評）たんぽぽに向って、見知らぬ遠くへ飛んでゆけ、翔けとはげましています。このことはこれからの自分にも当てはまることにつながるところが、この歌の良いところです。このように、言いたいことを他のことにたとえて歌にすると奥ゆかしい表現となり、歌に厚みが出て他には無い良さが出ます。

（彦根文芸協会　河分　武士）

佳作

秋くればおち葉が風で舞いおどり
虫たちみんなの合唱コンクール

中央中学校２年　志萱　宥香

佳作

たくさんの言ってもらったありがとう
やりがい感じたうれしい言葉

稲枝中学校２年　川村　美雨

佳作

あいさつは心をつなぐよい言葉
いらっしゃいませでかがやく笑顔

稲枝中学校２年　小西　開道

佳作

子どもの目黒くてきれいなビー玉だ
くもりがなくてきれいな心

稲枝中学校２年　門野　百笑

佳作

うちの猫あまりに物を壊すので
ついたあだ名がデストロイヤー

西中学校２年　井伊　直文

佳作

手を挙げて答えてみれば笑われた
今なら頬で湯を沸かせそう

西中学校２年　川口　才貴

佳作

暑い中ひたすらみがいて汚れた手
洗った車のきわ立つ白さ

稲枝中学校２年　梶山　竜成

佳作

現実はマンガのようにはいかないな
涙こぼしたこれぞ青春

西中学校２年　菊地　歩

佳作

秋の山緑から赤変わりゆく
こっちもそろそろ衣替えかな

南中学校２年　白田　凌雅

佳作

焼きイモを割ってふたりではんぶんこ
そんな夢みた中学生

南中学校２年　齊藤　百華

佳作

がんばった体育大会優勝し
みんなの笑顔夏の思い出

南中学校２年　平田　綺来

佳作

言えなくてはじめの一歩もふみだせず
たった二文字伝えられない

南中学校２年　松井　実希

佳作

夏の夜ホタルがきれいに光ってる
それはまさに星空のよう

南中学校２年　盛田　海都

佳作

秋が来た食に読書に芸術に
よりどりみどりの秋をまんきつ

鳥居本中学校２年　立岩　結花

佳作

くいしんぼう食べてもすぐに腹がへる
私のおなかはブラックホール

鳥居本中学校２年　中野　麻衣

佳作

あの試合僕のシュートで逆点勝利
忘れられないあの瞬間が

彦根中学校２年　西村　慶太郎

入選

ブロッコリー上はモジャモジャ下びょーん
僕は大好きみどりの食材

中央中学校２年　川分　翔太

入選

コンクリの間からのぞく雑草も
精一杯に生きてる証

中央中学校２年　小山　ほのか

入選

秋の風集めた落葉とんでゆく
私の悩みもとばしてください

西中学校２年　水野　利菜

入選

児童らと楽しく遊び仲深め
たくさん知った教師の良さを

稲枝中学校２年　川口　さくら

入選

大変だ職場のきびしさ身にしみる
けどお客様の笑顔が見れた

稲枝中学校２年　小畑　透馬

入選

立ち仕事想像以上に辛かった
仕事している親に感謝

稲枝中学校２年　荒見　真衣

入選

コンビニの表の顔はかんたんで
裏での仕事はすごくむずかしい

稲枝中学校２年　大西　裕太

入選

初めて知った郵便物にバーコード
黒きライトで照らすと見える

稲枝中学校２年　松原　佑樹

入選

勉強をやれと毎日監視され
空を見上げれば自由な鳥たち

西中学校２年　出口　皓貴

入選

塾帰りいつも眺める彦根城
この瞬間がいこいの時間

西中学校２年　山田　安純

入選

桜の葉緑が赤に衣更え
私も今日から黒い制服

西中学校２年　宮下　晶

入選

短冊に彼氏欲しいと書いたけど
彦星さんは忘れてるのかな

西中学校２年　西村　七優

入選

いつの日かおとずれてくるその日まで
努力は一生勝負は一瞬

西中学校２年　野口　佳祐

入選

舞台上言葉の前にきんちょうが
おそって言葉をさえぎってくる

西中学校２年　馬場　亮輔

入選

合唱コン気持ちを合わせ声出そう
一人一人がやる気を出そう

南中学校２年　竹中　花梨

入選

吹奏楽一人一人が音を奏で
まとまりにする一つの曲へ

南中学校２年　奥村　美洋

入選

夕焼けの風に舞い散るイチョウの葉
かけ足みたいに冬の訪れ

南中学校２年　嶋津　和希

入選

体育祭総合優勝勝ち取った
夏の思い出みんなの笑顔

南中学校２年　古川　麻依

入選

部活動みんな熱心に取り組んで
強くなりたい強くなりたい

南中学校２年　松山　智紀

入選

ぱっと咲き夜空を照らししゅんと散る
花火は夜空にレボリューション

鳥居本中学校２年　居川　昂生

入選

ありがとう相手に伝わるこの気持ち
人をつなげるすてきな架橋

彦根中学校２年　杉本　みなみ

入選

お散歩でいろんな花とであえたよ
桜につくしチューリップ

彦根中学校　匿名

入選

見わたせば春一面に咲く淡紅色
風と共に舞う日本の国花

彦根中学校２年　土本　芽生

入選

初めてのロープウェイに乗ってみて
大空泳ぐ私の姿

彦根中学校２年　和田　海瑚

【総評】

小学生は、子どもらしい視点での良い短歌（うた）が多くありました。作品の内容としては「見たこと」「やってみたこと」「自然の移り変わり」「家族のこと」などがあり、「自分がどう感じたか」を素直に短歌（うた）にしたのはとても大切なことで、うれしく読ませて頂きました。

これからは、今よりも多くの短歌（うた）を作って、その中から良いと思う作品を選ぶようにするともっと良くなると思います。

中学生は、昨年に比べて倍以上の多くの応募者と作品が寄せられました。また、今までのように字数が多すぎたり（字余り）、逆に字足らずの短歌（うた）は少なく、基本に忠実で、よくまとまっている短歌（うた）が多かったのは、先生のご指導の賜物と嬉しく拝見致しました。

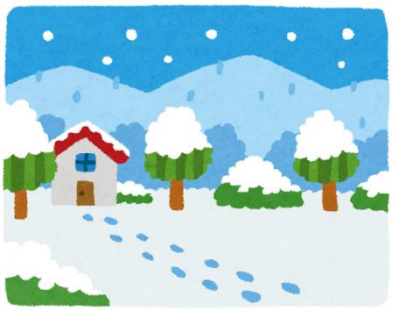
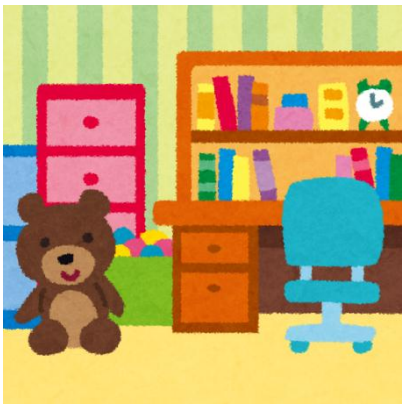
全体的には、学校生活における部活動、音楽祭や体育祭、職場体験など、共通のテーマによる作品が多く目につきました。

今後は、独自のテーマや視点で、個性的で他には無いような作品がもっと増えて欲しいと期待しております。

短歌を詠むのに大切なことは、「五・七・五・七・七」の五句三十一音で表し、このリズムは日本古来の文化です。

入選した作品やその批評を読んで、これからの参考にしてください。

「子ども文芸」に応募される時は、なるべく多くの短歌を作って、先生や家族にも見てもらって、その中から「これ」と思う作品を選んで出すのが望ましいことです。なお、有名な歌人の短歌や自分以外の人の作った短歌を写して出すのは厳禁です。

（彦根文芸協会　河分　武士）

（彦根文芸協会　長谷川　紀子）